

豆知識 意外と知らない豆知識

■六曜

カレンダーをよく見てみると、日付や曜日の他に、「大安」や「友引」「仏滅」などの言葉が書かれているのを見たことがないでしょうか。

六曜とは、六曜星の略で、大安・友引・先勝・先負・仏滅・赤口の6つを指し、それぞれに意味を持っています。(右図)

六曜の順序は、【先勝→友引→先負→仏滅→大安→赤口】の順で繰り返されていますが、旧暦での月の変わり目には順番が変わる事になります。

結婚式などで「本日はお日柄も良く」などと使われますが、この「お日柄」とはその日の吉凶のことであり、現代では六曜で判断することが多くなっています。

六曜はもともと中国で生まれたと言われており、日本には鎌倉時代以降に伝わったとされ、幕末頃には民間の暦にさかんに記載されるようになりました。しかし明治時代に入って、吉凶付きの暦注は迷信であるとして、政府はこれらを一切禁止したのです。第二次世界大戦後は政府による統制も無くなったため、占いの類は氾濫するようになり現在に至ります。

定かではありませんが、「三国志」で有名な諸葛孔明が発案し、六曜を用いて作戦を立てたところ、ことごとく勝利をおさめた、という話もあります。

先勝(せんしょう、せんがち)	午前中は吉、午後は凶。万事急ぐことが良く訴訟に良いといわれる
友引(ともびき)	朝夕は吉、昼は凶、俗に友を引くといわれ仏事は大凶、祝い事は吉
先負(せんぷ、せんまけ)	午前は凶、午後は吉、諸事控えめにすべし
仏滅(ぶつめつ)	万事に凶
大安(たいあん)	旅行、移転、開店、ほか万事によし
赤口(しゃっこう、しゃっく)	朝夕は凶、正午のみ吉

■干支



「干支(えと・かんし)」とは、本来「十干十二支(じっかんじゅうにし)」の略で、十干は甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸の10の要素、十二支は子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥の12の要素を意味し、あわせて干支と呼びます。中国やアジアなどの地域において、主に日、月、年や時間、また角度、物事の順序などを示すのに考え出され、用いられたものです。

干支は、昔から縁起物として担がれてきました。「無病息災・厄除祈念」として、生まれ年の干支を身に付ける風習があります。その年の干支を、飾り敬う事で「家内安全・商売繁盛」ともされています。また、人に授ける事で「招福祈願・安寧長寿」ともされています。

干支	干支の縁起話	干支の特徴
子	すぐに子ねずみが増え成長することから、子孫繁栄の意味があります。	行動力と財
丑	肉は大切な食料に、力は労働にと社会に密接に関わる干支です。	粘り強さと誠実
寅	虎は毛皮の美しい模様から前身は夜空に輝く星と考えられました。	決断力と才知
卯	兎の穏やかな様子から家内安全、跳躍する姿から飛躍を表します。	温厚で従順
竜	伝説の生き物・龍は瑞祥と言われ、古来中国では、権力者の象徴として、扱われました。	正義感と信用
巳	執念深いと言われる蛇ですが恩も忘れず、助けてくれた人には、恩返しを行うと言われています。	探究心と情熱
午	人との付き合いが古い動物。人の役に立ち、人間も馬を大事に扱いました。	陽気で派手好き
未	群れをなす羊は、家族の安泰を示し、いつまでも平和に暮らす事を意味しています。	穏やかで人情に厚い
申	山の賢者で、山神の使いと信じられていました。信仰の対象としても、馴染み深い動物です。	器用で臨機応変
酉	人に時を報せる動物。「とり」は「とりこむ」と言われ、商売などには縁起の良い干支でもあります。	親切で世話好き
戌	社会性があり、忠実な動物。人との付き合いも古く親しみ深い動物。	勤勉で努力家
亥	猪の肉は、万病を防ぐと言われ、無病息災の象徴とされています。	勇気と冒険